

平成 30 年度自己評価シート（中間評価）

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	高橋光子	全日制	本校
----	----	-----	--------	------	------	-----	----

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
1 主体的な深い学びを通して、夢や目標の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育てる。				
①深い学び、聴き合う関係づくり、ジャンプ課題を設定した授業が推進され、生徒の意識・行動が変容している。	○オーセンティックな学び、聴き合う関係づくり、ジャンプ課題の設定を取り入れた授業づくりを推進する。 ○生徒による授業評価アンケートを実施する。	B	・生徒による第 1 回授業アンケートの肯定的回答率：82% ・自分から進んで学んでいると回答した生徒の割合：81%	教務 教科
②常に学び合う協働的な教職員チームとして、自らの資質・能力の向上を図っている。	○教員一人 2 回以上(年間)の授業公開・協議会を実施する。 ○深い学びの推進に係る校内研修会を実施する。	B	・授業公開回数：12 回 ・校内協議会 1 回当たりの参加人数の平均：4.7 人	教務 教科
③生徒一人一人の進路希望の実現に向けて、組織的に取り組む。	○計画的、組織的に個人面談を行う。 ○各学年の進路検討会議を行う。	B	・進路指導部による全生徒面談：2 回(3 年)、1 回(1・2 年)実施 ・進路検討会議：3 年 1 回実施、2 年 0 回	進路指導 学年

（ A：計画はとても順調に進んでいる。 B：計画は概ね順調に進んでいる。
C：計画はあまり順調に進んでいない。 D：計画はまったく順調に進んでいない。 ）

【評価結果の分析】

○生徒による第 1 回授業アンケート（1 学期末 7/20 実施）結果の肯定的回答率(%)

質問項目	1 学年	2 学年	3 学年	平均
自分から進んで学んでいる	85	76	83	81
課題解決学習に積極的に取り組む	83	72	63	73
グループやペア学習は理解が深まる	90	96	92	93
誤答の理由を確かめて考える	83	76	92	84
どのような順番で説明すると良いか考える	85	72	79	79
全学年平均				82

「自分から進んで学んでいる」と回答した生徒の割合は、目標値の 80%を上回った。また、「グループやペア学習は理解が深まる」の項目では、全学年とも 90%を超えており、本校の授業スタイルはもとより、「一人残らず」生徒の学びを見とる授業実践が定着しており、高評価につながったと考えられる。一方、それ以外の項目では、学年によってばらつきが見られ、全体平均では目標値の 85%を 3%下回った。

- 校内授業研究会は、ほぼ計画どおり 12 回開催した。1 回あたりの参加者平均は 4.7 人であった。
- 進路指導部による全校生徒の面談を行い、各生徒の進路希望を把握した上で、担任と連携して、個々に応じた進路情報の提供や指導を行った。
- 3 学年生徒の進路検討会議を実施し、生徒の進路状況を全教職員で共有した。全教職員が、一人一人の生徒と向き合い、組織的・計画的に進路指導を行った。

【今後の改善方策】

- 引き続き、各授業において、学びの環境を整えるとともに、生徒一人一人の学びを見とる力を向上させる。また、校内の授業研究・研修会へ積極的に参加し、研修を深める。
- 11月に「主体的な深い学びを促す授業づくり」をテーマに「公開授業研究会」を実施し、各方面からの指導・助言を得て、教員の指導力及び授業内容の質的向上を図る。
- 生徒一人一人の進路希望の実現に向けて、2学期には2学年生徒の進路検討会議を実施し、生徒の進路状況を全教職員で共有して指導を行う。
- 模擬試験や各種検定試験の受験に向けた指導や、受験後の指導を充実させる。

2 社会人としての基礎を培い、基礎的人間力を身に付けた生徒を育成する。				
①自律心を育み、規範意識を考え実行できる能力・態度を育成する。	○挨拶、言葉遣い、服装、時間について日常的に全教職員が声かけを行う。 ○組織的な指導体制づくりを行う。	B	・遅刻 0 回の生徒の割合：88% ・特別な指導対象者数：4名	生徒指導 ・保健
②生徒会活動、部活動、地域貢献活動等を活性化し、自己肯定感を高め、地域を愛する生徒を育てる。	○生徒会活動、部活動、地域貢献活動を積極的に行い、地域を知り、地域の課題を発見し、課題解決に向けて探究的に取り組む生徒を育成する。	A	・主体的に学校行事等に参加したと考える生徒の割合：86% ・自己に対する肯定的評価をしている生徒の割合：78%	生徒指導 ・保健 学年
③異文化交流等を通じてグローバルマインドを向上させる。	○姉妹校交流を充実する。 ○異文化交流イベント等を積極的に紹介する。	A	・姉妹校訪問：1回 ・短期留学：1回	進路指導
④特別支援教育の視点をもった教育活動を推進する。	○気になる生徒や欠席の続く生徒について教員間の連携を密にし、生徒の心身両面にわたる支援を充実させる。	B	・特別支援教育に係る研修会開催回数：1回	生徒指導 ・保健

【評価結果の分析】

- 1学期中の生徒指導上の遅刻者数は1学年生徒5名、2学年生徒3名、3学年生徒3名、遅刻0回の生徒は78名であった。年度当初から9月まで遅刻をしなかった生徒の割合は88%で、目標値85%を上回る結果となった。
- 特別な指導については、2学年生徒4名に特別な指導を行い、生徒自らが自律心や規範意識を考えて実行できる能力・態度や自己肯定感を育てるために、組織的に特別な指導に取り組んだ。
- 第1回生徒アンケート（1学期末7/20実施）結果の肯定的回答率(%)

質問項目	1 学年	2 学年	3 学年	平均
①学校行事は、自分から進んで参加する	86	72	92	83
②学校でみんなと一緒に活動する事は楽しい	93	80	92	88
①②全学年平均				86
自分の良さは、周りの人から認められている	75	80	79	78

- 2学期を中心に、体育祭、合同文化祭等の学校行事及び地域貢献活動等が予定されているため、主体的かつ積極的に取り組む生徒の増加が期待できる。
- 自己に対する肯定的評価をしている生徒の割合は、目標値77%を若干上回ったが、約2割の生徒の自己肯定感の醸成が課題である。
- 7/23～7/25に台湾の姉妹校を2学年生徒2名が訪問し、台湾姉妹校の全校生徒と交流し、ホームステイを実施した。さらに、3学年生徒1名が8/16～9/2(約3週間)セブ島での短期留学を行い、貴重な体験を得て帰国した。

【今後の改善方策】

- 生徒との個別面談を充実させるとともに、生徒に係る連絡会議を毎週行い、引き続き、教職員間の情報共有を密に図り、組織的な生徒の育成に取り組む。
- 学校行事等において、生徒が主体的に企画や運営ができるように、指導の工夫・改善を行う。
- 生徒自身が自分の良さを発見し、協働して課題を発見し解決していく活動を充実させる。
- 姉妹校訪問及び短期留学を行った生徒には、体験を発表する場を設定してその意義や成果を全校生徒に伝えさせ、次年度以降、さらに多くの生徒が参加するよう指導を行う。
- 特別支援教育の視点をもった教育活動を推進するため、校内特別支援教育推進委員会を充実させるとともに、個別の支援計画・指導計画に基づいて、生徒の心身両面にわたる支援を行う。

3 地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。				
① 中学校との連携や魅力的な広報活動を通して、生徒の募集に努める。	○中学校で生徒・保護者の期待に応える学校説明を行う。 ○オープンスクールを充実させ、授業体験を組み込む。	A	・オープンスクール参加者数：72名 ・参加者アンケートによる満足度の割合 学校説明：100% 模擬授業：100%	総務
② 学校教育活動について、タイムリーな情報発信を行い、計画的かつ丁寧な広報に努める。	○毎週更新を行い、タイムリーな情報発信を行う。 ○本校の魅力PRの工夫を行う。	A	・学校ウェブサイトの月当たり平均更新回数：7.6回	総務
③ 働きやすい職場環境づくりを目指し、組織的・継続的に業務改善を推進する。	○積極的に業務の改善に取り組む。 ○協働する教職員チームとして業務を遂行する。	B	・業務改善に取り組んだ件数：4件	全分掌

【評価結果の分析】

- 6/16(土)にオープンスクールを実施し、昨年度に引き続き本校生徒が主体的に運営していくよう指導し、中学生・保護者の期待に応える学校説明となるよう内容の工夫と充実に取り組んだ。また、県内全中学校へPR郵送を行うとともに、積極的な広報活動を行った。72名(中学生37名、保護者等35名)の参加があり、目標値の40名は上回ったが、中学生の参加者数は、昨年度に比べて若干減少した。近隣の中学校及び中学生女子野球の大会等行事と重なったことが要因と考えられる。
- オープンスクール参加者アンケートによる満足度も100%となり、「不満・やや不満」と回答したアンケート項目は全くなかった。
- 本校を取り上げた新聞記事は10件、テレビ放送は5回(NHK2回、民放3回)で、積極的な本校PRができたと考えられる。
- ウェブサイトの内容を充実させるために、タイムリーに情報を掲載させるとともに、部活の内容を充実した。
- 具体的な業務改善の取組として、「校務運営会議」の見直し(4月)、教職員用「事務手続きの参考書」作成配付(4月)、生徒関係の届出様式を定め事務手続きの簡略化(4月)、「組織的な生徒指導体制」の検討・構築(6月)を行った。
- 今年度、放課後に行っていた会議を時間割に組み入れた結果、より効率的な会議の運営とともに、放課後は、生徒と向き合う時間の確保にあてることができた。

【今後の改善方策】

- オープンスクールに参加した中学校と密に連携を図り、さらに積極的な生徒募集を行う。
- 学校ウェブサイト及び学校の魅力化PR等の広報活動をさらに充実させ、多くの方々から信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- 今後も効率的な会議運営や業務の見直しを進めるとともに、風通しがよく、働きやすい職場環境づくりを推進していく。

様式 4

平成 30 年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	高橋光子	金・定・通	分
----	----	-----	--------	------	------	-------	---

1 評価結果の分析

(1) 「主体的な深い学びを通して、夢や目標の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育てる」について

○生徒による第1回授業アンケート(1学期末7/20実施)結果の肯定的回答率(%)

質問項目	1 学年	2 学年	3 学年	平均
自分から進んで学んでいる	85	76	83	81
課題解決学習に積極的に取り組む	83	72	63	73
グループやペア学習は理解が深まる	90	96	92	93
誤答の理由を確かめて考える	83	76	92	84
どのような順番で説明すると良いか考える	85	72	79	79
全学年平均				82

「自分から進んで学んでいる」と回答した生徒の割合は、目標値の80%を上回った。また、「グループやペア学習は理解が深まる」の項目では、全学年とも90%を超えており、本校の授業スタイルはもとより、「一人残らず」生徒の学びを見とる授業実践が定着しており、高評価につながったと考えられる。一方、それ以外の項目では、学年によってばらつきが見られ、全体平均では目標値の85%を3%下回った。

○校内授業研究会は、ほぼ計画どおり12回開催した。1回あたりの参加者平均は4.7人であった。

○進路指導部による全校生徒の面談を行い、各生徒の進路希望を把握した上で、担任と連携して、個々に応じた進路情報の提供や指導を行った。

○3学年生徒の進路検討会議を実施し、生徒の進路状況を全教職員で共有した。全教職員が、一人一人の生徒と向き合い、組織的・計画的に進路指導を行った。

(2) 「社会人としての基礎を培い、基礎的人間力を身に付けた生徒を育てる」について

○1学期中の生徒指導上の遅刻者数は1学年生徒5名、2学年生徒3名、3学年生徒3名、遅刻0回の生徒は78名であった。年度当初から9月まで遅刻をしなかった生徒の割合は88%で、目標値85%を上回る結果となった。

○特別な指導については、2学年生徒4名に特別な指導を行い、生徒自らが自律心や規範意識を考えて実行できる能力・態度や自己肯定感を育てるために、組織的に特別な指導に取り組んだ。

○第1回生徒アンケート(1学期末7/20実施)結果の肯定的回答率(%)

質問項目	1 学年	2 学年	3 学年	平均
①学校行事は、自分から進んで参加する	86	72	92	83
②学校でみんなと一緒に活動する事は楽しい	93	80	92	88
①②全学年平均				86
自分の良さは、周りの人から認められている	75	80	79	78

2学期を中心に、体育祭、合同文化祭等の学校行事及び地域貢献活動等が予定されているため、主体的かつ積極的に取り組む生徒の増加が期待できる。

○自己に対する肯定的評価をしている生徒の割合は、目標値77%を若干上回ったが、約2割の生徒の自己肯定感の醸成が課題である。

○7/23~7/25に台湾の姉妹校を2学年生徒2名が訪問し、台湾姉妹校の全校生徒と交流し、ホームステイを実施した。さらに、3学年生徒1名が8/16~9/2(約3週間)セブ島での短期留学を行い、貴重な体験を得て帰国した。

(3) 「地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する」について

○6/16(土)にオープンスクールを実施し、昨年度に引き続き本校生徒が主体的に運営して

いくよう指導し、中学生・保護者の期待に応える学校説明となるよう内容の工夫と充実に取り組んだ。また、県内全中学校へPR郵送を行うとともに、積極的な広報活動を行った。72名(中学生37名、保護者等35名)の参加があり、目標値の40名は上回ったが、中学生の参加者数は、昨年度に比べて若干減少した。近隣の中学校及び中学生女子野球の大会等行事と重なったことが要因と考えられる。

- オープンスクール参加者アンケートによる満足度も100%となり、「不満・やや不満」と回答したアンケート項目は全くなかった。
- 本校を取り上げた新聞記事は10件、テレビ放送は5回(NHK2回、民放3回)で、積極的な本校PRができたと考えられる。
- ウェブサイトの内容を充実させるために、タイムリーに情報を掲載させるとともに、部活の内容を充実した。
- 具体的な業務改善の取組として、「校務運営会議」の見直し(4月)、教職員用「事務手続きの参考書」作成配付(4月)、生徒関係の届出様式を定め事務手続きの簡略化(4月)、「組織的な生徒指導体制」の検討・構築(6月)を行った。
- 今年度、放課後に行っていた会議を時間割に組み入れた結果、より効率的な会議の運営とともに、放課後は、生徒と向き合う時間の確保にあてることができた。

2 今後の改善方策

- 引き続き、各授業において、学びの環境を整えるとともに、生徒一人一人の学びを見とる力を向上させる。また、校内の授業研究・研修会へ積極的に参加し、研修を深める。
- 11月に「主体的な深い学びを促す授業づくり」をテーマに「公開授業研究会」を実施し、各方面からの指導・助言を得て教員の指導力及び授業内容の質的向上を図る。
- 生徒一人一人の進路希望の実現に向けて、2学期には2学年生徒の進路検討会議を実施し、生徒の進路状況を全教職員で共有して指導を行う。
- 模擬試験や各種検定試験の受験に向けた指導や、受験後の指導を充実させる。
- 生徒との個別面談を充実させるとともに、生徒に係る連絡会議を毎週行い、引き続き、教職員間の情報共有を密に図り、組織的な生徒の育成に取り組む。
- 学校行事等において、生徒が主体的に企画や運営ができるように、指導の工夫・改善を行う。
- 生徒自身が自分の良さを発見し、協働して課題を発見し解決していく活動を充実させる。
- 姉妹校訪問及び短期留学を行った生徒には、体験を発表する場を設定してその意義や成果を全校生徒に伝えさせ、次年度以降、さらに多くの生徒が参加するよう指導を行う。
- 特別支援教育の視点をもった教育活動を推進するため、校内特別支援教育推進委員会を充実させるとともに、個別の支援計画・指導計画に基づいて、生徒の心身両面にわたる支援を行う。
- オープンスクールに参加した中学校と密に連携を図り、さらに積極的な生徒募集を行う。
- 学校ウェブサイト及び学校の魅力化PR等の広報活動をさらに充実させ、多くの方々から信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- 今後も効率的な会議運営や業務の見直しを進めるとともに、風通しがよく、働きやすい職場環境づくりを推進していく。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入)

- 授業研究を通じて、主体的で深い学びを促す指導方法の研究をさらに推進し、生徒の学力向上や進路実現を図る。
- 今後も地域貢献活動等を積極的に推進し、生徒の自己肯定感を高め、地域を愛する心を育てていく。また、異文化交流を継続的に実施し、生徒のグローバルマインドを向上させる。
- 地元の中学校とさらに連携を深め、地元からの生徒募集に資するとともに、今後も、地域に開かれた学校づくりを推進していく。

様式 7

平成 30 年度学校関係者評価シート(中間評価まとめ) 平成 30 年 10 月 31 日

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	高橋 光子	金・定・通	金・分
評価項目	評価	理 由 ・ 意 見					
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね適切である。 ・教師の主体的な取組が生徒の意識行動に影響を与え良い方向に向かっている。 ・指標に取組指標が多い。取り組んだ結果, 生徒がどのように変容したかを指標にする必要がある。 					
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・とても適切である。 ・計画の進捗状況は教職員の取組によるものが大きく影響すると思う。 ・評価の適切さがよい。 					
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・とても適切である。 ・高めの目標に向けて適切に取り組んでいる。 ・生徒一人一人を大切にされた指導がよい成果を上げている。 					
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・とても適切である。 ・多少, 厳しく評価している。 ・生徒の自主的な学習やグループやペア学習による成果が定着している。 					
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で行う進路検討会議は意義がある取組である。 ・校内の授業研究会の成果がでているので, 継続してほしい。 ・もう少し具体的な改善方策が示されるとよい。 					
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画はとても順調に進んでいる。引き続き達成に向けて取り組んでほしい。 ・校長を中心とした取組が充実している。 ・先生が生徒と向き合い指導されている様子が伺える。 ・地元の学校への積極的な生徒募集を, 今後も継続してほしい。 ・素晴らしい取組で指導の効果をあげ, 生徒の育成に成果として表れている。 					